

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470800455		
法人名	有限会社 エフ		
事業所名	グループホームいせ		
所在地	三重県伊勢市一之木4-11-31		
自己評価作成日	令和 元年 9月 10日	評価結果市町提出日	令和元年12月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&Ji_gvosyoCd=2470800455-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 元年 10月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自身の持つ力を発揮し、皆で助け合う笑顔が絶えない家族、一人ひとりの思いを大切に、入居者様同士と職員が日常生活のかかわりの中で、大切な家族としての関係を築きながら、社会と繋がった当たり前の生活が送れるように、支援させていただいています。11月でホーム開設より17年になります。多くの認知症の方を支援させていただきました。様々な症状、それぞれの個性があり、限られたハード・ソフト両面で職員は創意工夫し、ケアに取り組んでいます。介護1から終末期の方まで入居されており、ターミナルケアへの取り組みも協力医や訪問看護、家族の協力で実践しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所周辺には、訪れやすい店舗が数件あり利用者も出かける事が多く、地域に出かける事により地域との関係が広がり認知症の理解も深まりつつある。社会とつながった生活を継続出来る様に日々の支援では、一人ひとりの思いを大切に、笑顔で当たり前の生活が送れるように、職員は要望に対応出来る姿勢を心掛けている。また 利用者の持っている力を発揮し社会とつながった生活が継続出来る様に「一人ひとりのこれからの生活をその人らしく過ごす」を大切に日々取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、実践のための振り返りをミーティングで行っている。日々の申し送りの中でも、気付いたところ等、理念に沿った考えの下話し合っている。	日々の申し送り時やミーティング時に、理念に添ったケアの実践であるか検討・振り返りを行い、全職員で支援方法を共有し安心して過ごせるような支援をしている。理念の具現化に取り組み利用者の表情も和やかで明るい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や喫茶、買い物、外食等の外出ケアや地域行事の参加等、日常的な交流を行っている。開設記念行事を開催し、日頃お世話になっている地域の方を招いて食事をしたり、歌を歌うなどの交流をしている。	地域のふれあい祭り、餅つき等の地域行事に積極的に参加し地域の方々との交流を深め、安心して暮らせる様に努めている。地域交流の目的で食事会を催し、地域の方々と食事を共にする事も利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外出支援等で地域の方と交流の機会を多く持つことにより、認知症の方の理解と、援助の輪を広げている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況、様子、行事等の報告、職員の移動や入退社等の報告もしている。参加者からの意見や要望があればケアに取り入れるようにして、サービスの向上につなげている	2か月に1回定期的に開催し事業所の状況や行事予定などを報告し、行政職員はじめ参加者から活発な意見や提案があり、サービスの向上につなげている。開設記念食事会を兼ねて開催し、発言しやすい雰囲気づくりをしている。	運営推進会議を通して、地域連携や事業所の理解も広がり運営に生かされているが、参加者が固定されつつあるので、今後幅広い分野の社会資源に参加要請をし、さらに充実した会議になる事が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や研修会等で、入居者の生活の様子、現場の状況を伝えるようにしている。高齢の家族様の情報を共有して見守っている。災害時の避難場所として、協力関係の構築に努めている	運営推進会議での情報交換や地域活性化の為に連携等、出されたアドバイスをサービス向上に活かして協力関係を築いている。災害に関しても非常災害時連携をし、協力関係の構築に努めている。介護相談員の受け入れも検討中ある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の安全を守るために行なっている施錠ではあるが、定期的に話し合の機会を設け、身体拘束適正化委員会を中心に職員全体で考え、代替方法はないか等も含めて話し合っている。理解を深める為の研修にも参加している	「身体拘束適正化委員会」を中心に、身体拘束をしないケアとは、どういうものなのかと全職員が周知出来る様に絶えず話し合っている。自己点検チェックシートを、自己記入し検討して支援に活かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	何気ない言葉の一つ一つ、個々のケアをカンファレンスにて振り返りを行い、職員間で注意し合える状態にし、新しい職員には先輩職員がその場で助言し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、学ぶ機会を持つようになっている。入所者様の個々の必要性については、状態に応じて家族に提案したり、相談に応じたり、活用できるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約解約に関する説明は入居時に時間をかけて行き、疑問や不安がないように心掛けている。疑問や質問には出来るだけわかりやすい言葉で答えるようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族へは手紙や電話、面会時に生活の様子を報告する等、気兼ねなく話せる雰囲気を中心掛けている。運営推進会議に市職員の参加がある事を伝え、頂戴した意見はミーティング等で反映している	利用者の言葉や気付きから職員が判断し業務日誌に記入し、全職員が共有し面会時に生活の様子を家族に報告している。事業所の取り組みについても理解して頂き要望も出ている。家族から下肢運動の希望がありリハビリ計画を立て実施した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	休憩時間やミーティング等で、随時に職員の意見や要望、問題点・アイデアを出せるようにし、管理者が代表者に報告し運営に反映している。	申し送り時やミーティング時、休憩時間に何気ない会話で意見や提案が出しやすい環境を作るように努めている。ハード面での改善要望として、今年度の暑さ対策としてファンを取り付け涼を確保した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は実績や個々の努力に対して一定の評価を示している。職場環境に関しては、管理者が職員の意見を聞き取り上申し、環境・条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時に管理者より認知症ケアについての研修を実施後、実践現場に入ってもらい、先輩職員と一緒に実践しながら、ケアの方法、技術などを習得できるようにしている。また施設内外の研修へ参加を促し、スキルアップの為に補助もしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	伊勢地区サービス事業者連絡協議会に加入し、研修や交流会、見学会に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用に際しては必ず面談を行って心身の状況、生活の様子を確認し、本人の抱えている不安や要望を会話から受け止められるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前には本人だけでなく、家族が抱えている悩み、苦勞、これまでの生活の様子等を聞き取り、安心に繋げていけるようにしている。家族との関係構築の第一歩と考えている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みや相談を受けた際には、本人、家族双方の思いや抱えている問題・悩みの把握に努め、必要な支援を共に考え、サービスにつなげるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作り、盛り付け、配膳、食器洗い、洗濯畳みなど、その人の出来る事を見極めながら手伝いをして頂き、入居者同士、職員と入居者が互いに助け合える関係作りを考えながら支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの様子や出来事、職員の思い等を手紙で伝え、情報を共有している。家族の絆、想いを大切にして、共に支えあえる関係作りを努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者に知人から暑中見舞いや年賀状が届く。本人の嬉しく懐かしい気持ちを大切に、ハガキを準備し、書いて頂き、スタッフが投函している。	入居前の情報や生活ノートを参考にし、馴染みの人や場所の関係が途切れない様になっている。入居前に入った銭湯に、職員と行く利用者や昔参拝した外宮に出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を把握し、会話が弾むように席を工夫したり、ストレスがたまらないようにも努めている。車椅子の方を元気な方が押して散歩する、食事が進まない方に声掛けをする等、様々な助け合う場面があり見守っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や事業所に移られた場合は、心身の状況や生活の様子も伝えるようにしている。共に過ごした家族としての関係を大切にしたいと思っている。ホームに慰問に来てくれる家族様も見える。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中から出てきた言葉や表情から本人の思いを読み取り、また会話の中で思いを引き出せるように努めている。聞き取った思いや希望はカンファレンスを行い、職員が共有し実践に努めている	生活の中での言葉や日々の表情から思いを引き出し、介護記録に本人の言葉そのまま記入している。事例として夜勤帯で「辛かった思い出話」を傾聴、安心された。また妹を気にかけている利用者には、自分の言葉で妹への思いを手紙に書いてもらう等、本人本位に関っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴、病歴、生活環境等のアセスメントを行い、全職員が共有している。入居後も本人との会話や家族、友人の面会時に話しをする中で情報の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察と個々の記録と確認を申し送り、記録の読み取り、カンファレンスを行うことで、一人一人の現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の持っている力や本人の言葉から課題を見出し、面会に来られた家族や友人・知人から得られた情報や意見を活用し、生き生きと暮らせる支援方法を話し合い、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングでモニタリング、カンファレンスをし、ケアプラン作成時に重度の方のケースには、協力医の参加がある。3か月毎の見直し時には全職員が関わっている。本人・家族・医師・看護師の意見が反映され、現状に即した介護計画書を目指している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言動・表情、職員の気付きやケアの実践を個別に記録し、職員間で共有をし、毎月のミーティングで話し合い、実践や介護計画に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の現況、希望に出来る限り添えるよう、柔軟な支援・対応が出来るように職員で検討し取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事への参加、近くの喫茶に出かける、季節の花の名所めぐり等、豊かな暮らしの実現のため地域資源を活かし楽しむことが出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約時に連携医との24時間連携体制の説明を行い、本人・家族が安心して医療を受けられることを前提に主治医を選択していただいている。専門医が必要な場合は、家族、又は職員の付き添いで受診していただいている	全員が協力医による月2回の定期健診と週1回の訪問看護により医療機関との24時間連携体制も取れている為夜間往診も可能である。安心安全な医療体制で適切な医療が受けられる為、利用者・家族に喜ばれている。訪問歯科利用も可である。受診は基本家族であるが、職員の移送や院内介助の支援も実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日々の関わりの中での変化や気づきを週一回のDr受診、週一回の訪問看護に伝えて相談し、個々の入所者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族の状況に応じて洗濯物やオムツを届け、担当看護師にホームでの状況説明や生活の状態を伝えたり、入院中の様子を聞き、ホームで対応出来る事は協力している。病院医師からの情報は連携医を通じて確認し、MSWとも相談を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化、終末期の対応について説明を行い、家族の希望を伺っている。ホームでの終末を希望された場合は、連携医、訪問看護の協力を得て段階ごとに話し合いを持ち、家族の希望に添うようにしている	入居契約時に「重度化した場合における対応及び看取りに係る指針」を利用者・家族に説明し、思いの確認を行っている。職員は急変時の対応に関する事業所内研修も習得し、ターミナル研修も全職員が周知している。協力医と訪問看護師の協力体制も整い、家族・利用者の意向を大切にすることを支援をしている。最近1名の看取りをした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急急変時の対応に関する施設内研修を行っている。事故発生・緊急時の対応マニュアルが各階に掲示してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時対応マニュアルを作成し、年2回の避難訓練を実施。対応手順の確認や非常階段での避難、避難召集の確認、避難シミュレーション等を行っている。運営推進会議でホームの状況を伝え、互いに協力出来る事を協議している	「災害時対応マニュアル」があり、併設する2事業所合同で年2回避難訓練を実施しており、事業所が3階建ての為、非常階段の訓練も行っている。自治会催しの防災訓練にも利用者共に参加し、災害時の地域との協力体制は築けている。「ライフライン停止時の食事づくり訓練」を実施し、課題も出た。発電機・充電式の電灯・カセットコンロ・食料等も揃えた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のアセスメントを基に、気持ちを汲み取りながらのケアを心掛けている。言葉かけはゆっくりと穏やかに笑顔で、本人の聴きなれた言葉等、気持ちを汲み配慮しながら言葉をかけるようにしている。	全職員が最も配慮している事は、言葉かけや、呼称を、画一的にせず利用者個々にふさわしい方法での対応を心掛けている。特に入浴時や排泄時にプライバシーの配慮に心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活は個々の過ごし方を大切にしている。着替えの時は自分で選んでいただけるように働きかける等、自己決定の場面が増えるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	活動的な方は家事への参加、水遣り等の日課等を取り入れ、お話し好きな方は、あちらこちらで話に花を咲かせ、ゆっくり過ごしたい方はのんびりすごして頂く等、1人ひとりのペースを大切に支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居時の面談や本人、家族との会話からこれまでの生活の様子を伺い、化粧や好みの服装等、その人らしさを失くさない身だしなみやおしゃれが出来るように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	忙しくしている職員を見て、「出来る事があつたら言うて」と盛り付け、配膳、洗物等手伝ってくれている。職員はその方の出来る事を考えて、手伝いやすい雰囲気になるよう工夫し、助け合いの関係作りに努めている	配達業者から材料を調達し、職員が調理、利用者は能力に応じて材料を切ったり、盛り付けや配膳・下膳を職員と一緒にいき甲斐となっている。買い物に同行する利用者もいる。おせち料理・クリスマス等の行事食もあり、誕生日食は嗜好を聞き皆で楽しく作り食事が楽しいものになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に応じて適切な分量を食べていただけるように支援している。必要と思われる場合は一日の水分量等を記録し、Drに相談して適切なアドバイスを受ける等、一人ひとりの状態や、力に応じた支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の力で足りないところはスタッフが介助をしている方、スタッフが口腔ケアをしている方等、一人ひとりの力に応じた口腔ケアをしている。訪問歯科による口腔ケアも行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のサインやリズムを把握し、個々の力に合った排泄の支援が出来るようにしている。	排泄チェック表で個々の排泄パターンを全職員が把握し、その人に合った排泄支援をしている。特にトイレでの排泄に力を入れ在宅時よりトイレに行く自信につながった利用者もいる。ハード面も関係し、夜間は居室でポータブルを使用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体を動かす機会を作り、便秘の予防を心掛けている。個々に合う薬の服用や腹部マッサージ等を行い、出来るだけ自然な排便ができるように支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本午前中の中の入浴としている。ゆず湯や菖蒲湯等、季節感を感じていただけるような工夫をしている。入所前に行っていた銭湯に、スタッフ同行で行っていただく支援もしている	基本週3回午前中の中の入浴であるが、中には本人の希望で毎日入浴する利用者もいる等、一人ひとりの希望を大切にする支援をしている。拒否する利用者には強制はせず関わりを試行錯誤して入浴を提供している。シャワー浴の利用者も数名いる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯、就寝時間は定めず、個々のリズムに合わせて対応している。夜間不眠気味の方はその原因究明のため観察・情報交換・話し合いを行い、安眠への支援を行うようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の変更、追加の場合は薬情報だけでなく、申し送りや連絡ノートに変更の理由や服用後の状態の変化を記して、全職員が把握できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が得意な方には調理や盛り付け、裁縫をしていただいたり、身体を動かすことが好きな方には掃除を、外出が好きな方には一緒に買い物、個性や力を活かせるように支援している。施設内でのレクや外出支援にも力を入れている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出好きな方がたくさん見え、季節が良ければ毎日のように近所へ散歩に、近くにある喫茶店は行きつけの場所となっている。一人ひとりの希望を会話から引き出し、叶うように心掛けている。家族との外出、地域行事への参加も楽しみにされている	コスモス・紅葉狩り・桜・菖蒲の花見等季節を味わい、五感を刺激するように多くの外出支援をしている。良天時には屋外で外気浴をしたり、近隣の喫茶店への外出は、利用者が好んで出かける場所となっている。年2回の外食も利用者の楽しみとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は個々の力に応じてお金を使うことが社会性を維持していくことと理解しており、外出時に品物を選び、自分が持っているお金で買えるか考え、お金を払い釣銭を受け取ることを自分で出来るように個々の力に応じて支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の申し出で、いつでも自ら電話をかけられるようにしている。自分でかけられない方には、通話できる状態にして本人に代わり話してもらっている。手紙のやり取りができる方には、文面を考えて書いて頂き、スタッフが預かり投函している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が混乱や不快を招かないように考慮しつつ、季節の花や絵、手作りの装飾品を飾って季節感を出している。日常の写真やイベント事の写真を飾って、思い思いの楽しみある空間作りを心掛けている	両ユニット共食堂兼ホールは季節の花や絵を飾り季節感を演出している。窓からの光も程よく明るく、空気清浄器や加湿器も設備されており、テレビを見たりして1日の殆どを楽しく過ごす空間である。畳スペースには民芸家具を置き、くつろぎの場で洗濯物をたたむ利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のほかに畳みスペース、廊下のソファ、玄関ホールにはベンチや椅子を置き、一人になれる場所、思い思いにくつろげる場所となるように工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く安心出来る空間にさせていただく為に、使い慣れた物や好みの飾り、こだわりの物があれば持ち込んでいただくように家族に伝えている	居室の入り口には利用者好みの暖簾がかけられ自分の居室が解かりやすくなっている等、自立した生活出来る環境になっている。また使い慣れた家具やぬいぐるみ等が持ち込まれ、利用者の思いを大切に、居心地良く安心できる空間となっている。利用者の都合で畳部屋の対応もしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り障害物は置かない、自分の部屋が分かりやすいように好みののれんを掛ける等、安全に自立した生活が送れる環境作りに努めている。混乱や失敗の原因を考えて整備すると共に創意工夫している		